2019 年度休眠預金活用事業

事後評価報告書（公益財団法人お金をまわそう基金）

1.　事業概要

医療の進歩により障害や病気を持つ多くの新生児の命が助かるようになった。しかし、同時に医療的ケアを必要とする子どもが増加している。人工呼吸等が不可欠な医療的ケアを必要とする子どもが 2019 年には 19,000 人に達する見通し（※）。※平成 30 年厚生労働科学研究田村班報告より

本事業では、24 時間の介護の負担や周囲からの理解を得にくい、外出する際に大変な困難を伴うなど、社会から孤立しがちな医療的ケア児とその家族に、安心して楽しい思い出をつくってもらうためのイベントや旅行を提供することで社会との接点を作り、彼らが孤立することなく夢や希望をもって生活することができる社会の醸成を目指す。

※本事業は、マッチング寄付の仕組みを作り実行団体へ助成を行った。
お金をまわそう基金のプラットフォームを通じて寄付金を集め、集まった寄付金の 3 倍額を休眠預金活用事業の助成金から加算し、各実行団体に助成する。

直接的対象グループ	自立歩行、座位保持が困難な医療的ケア児を中心とする子ども達とその家族　約 5,000 人
中長期アウトカム	支援地域において、本事業に参加した子どもや家族が社会から孤立することのない地域社会をつくる
短期アウトカム	支援地域において、本事業に参加した子どもや家族が日常生活を前向きに過ごせる状態になる
	きょうだい児が我慢することなく楽しい時間を過ごせる状態になる
	利用した商業施設などが、特別感なく支援対象の子どもとその家族を受け入れるようになる状態
	支援地域において、実行団体へのファンドレイズ支援により、対象となる子どもや家族に対する支援が活性化される
	実行団体において、伴走支援により組織基盤が強化され、事業の継続性向上や事業の拡大した状態になる

2.　活動内容

資金的支援

１．支援対象の子どもとその家族の旅行や夢の実現をサポートする機会を実施

２．支援対象の子どもとその家族同士が交流や相談をする機会を実施

３．一般の商業施設などが支援対象の子どもとその家族を受け入れる機会を実施

非資金的支援

１．寄付募集のページ作成、公開

２．当財団ウェブサイト等での、実行団体の活動発信

３．実行団体へセミナー・体験会などのイベント企画

４．実行団体向けに、組織基盤強化や事業拡大するためネットワークの提供などの支援を行う

3.　事後評価実施概要

（１） 実施概要

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

・受益者（主に医療的ケア児のご家族）の心境の変化

・社会の変容（実行団体の活動に参加したボランティアや協力先企業のスタッフ）

・当財団の支援による実行団体の変化（ファンドレイズ力や組織基盤の充実等）

②どんな調査で測定したのか

・アンケート

・実行団体のイベントや旅行に参加した医療的ケア児のご家族

・実行団体の活動に参加したボランティアや協力先企業のスタッフ

・ヒアリング

・各実行団体の担当者

③調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

評価アドバイザーの協力を得ながら、事業担当プログラムオフィサー2 名がアンケート・ヒアリング結果を集計し、目標値の達成状況を把握、また定性データより心境の変化や支援効果と考えられる内容を選出し、目標状態に照らしての達成状態を判断した。

（２） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

[内部評価]

田川 道子　（公益財団法人お金をまわそう基金 プログラムオフィサー）

伊藤 眞作　（公益財団法人お金をまわそう基金 プログラムオフィサー）

［第三者評価・評価アドバイザー］
熊沢 拓氏 株式会社ソーシャルインパクトリサーチ

4. 成功要因・課題

（1） 特に社会課題解決に貢献したアウトカム

「支援地域において、実行団体へのファンドレイズ支援により、対象となる子どもや家族に対する支援が活性化される」

当財団のプラットフォームを使い、実行団体３団体で計 10 回のマッチング寄付募集を行った。９回は目標金額を達成、残り１回も目標金額の約 80％を達成。実行団体が予定していた活動資金の大部分を集めることができ、対象となる子どもや家族に対する支援ができた。

３団体のうち１団体は、今まで公に寄付を募集したことがなく今回が初めての挑戦だったが、５回寄付募集を実施したうち４回は目標金額を達成した。寄付募集の文章作成、寄付の声掛け、SNS 等での発信方法等を資金分配団体より助言。今後活動資金を獲得し事業を実施していく中で、この休眠事業での経験が活かされ、支援の活性化に役立てられると考える。

【各実行団体の寄付実績と達成状況】

NPO 法人 Lino

	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回
目標金額	502,563 円	435,787 円	435,788 円	415,645 円	369,890 円
実績	394,030 円	435,787 円	435,788 円	415,645 円	369,890 円
達成率	78.4%	100%	100%	100%	100%

公益社団法人ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO

	第１回	第２回
目標金額	283,750 円	334,500 円
実績	283,750 円	334,500 円
達成率	100%	100%

公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を

	第１回	第２回	第３回
目標金額	475,000 円	412,500 円	412,500 円
実績	475,000 円	412,500 円	412,500 円
達成率	100%	100%	100%

要因：
・当財団のプラットフォームを利用することで、今まで接点のなかった支援者に活動を知ってもらう機会ができ新たな支援につながった。
・それぞれの団体の既存の支援者であっても、当財団を通すと寄付金控除を受けられる点にメリットを感じた。
・支援者が、寄付した金額の３倍が上乗せされて実行団体に助成される点に魅力を感じた。

（２）達成が困難であったアウトカム
「実行団体において、伴走支援により組織基盤が強化され、事業の継続性向上や事業の拡大した状態になる」
３団体中２団体は、資金的支援や事務的なフォロー等により３年間の助成期間中に事務的スキル向上や協力者の拡大につなげることができたが、３団体中の１団体について、予定していた事業を繰り上げて終了し、当初計画した事業を実施することができなかった。

要因：
・長期化した新型コロナウイルス感染症流行における同組織の方針転換
同実行団体が「当初予定した受益者同士の交流事業は高リスクであり、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が変わるまでは実施を見合わせる」との方針を決定。代替事業も検討したが、想定以上に新型コロナウイルス感染症の流行が長期化。同団体内で議論の結果、対面での事業実施こそが同団体の目指す受益者への価値提供であるという結論に達し、休眠事業を前倒しして終了するに至った。
・実行団体の選考基準
同団体は現場を一人体制で運営していたため、組織全体の課題が発生した際に当財団が情報収集をする手段が限られてしまい、迅速・的確な助言等を行うことができなかった。今後は審査基準として、組織内での申請事業の位置づけや、組織の代表と事業実施者の連携度合い、組織内部でどの程度の人が申請事業を理解しているか等についても考慮する必要性を認識した。

5.　波及効果（想定外、波及的・副次的効果）
・当事業へ応募したことがきっかけとなり、2020～2022 年度で当財団の通常助成先になった団体（特定非営利活動法人みかんぐみ）は、当財団のプラットフォームを利用し、合計約 170 万円のファンドレイズをすることができた。
・同じく当事業への応募がきっかけとなりつながりが生まれた団体（特定非営利活動法人アンリーシュ）には、実行団体の取材を委託したり医療的ケア児のイベント（アンリーシュ 作文コンテスト 2020）開催場所として当財団の社屋を提供したりして、医ケア児の認知度向上に向けて連携した。当時はまだ注目度が高くなかった「医療的ケア児」をテーマとして事業を立ち上げたことで新たなつながりを生み、情報交換をしながら同テーマに取り組むことができた。

・2021 年 10 月に、テーマを「働く意味や豊かさ」として実行団体（公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を）と対談形式のセミナーを開催。新型コロナウイルス感染症が流行中であるにも関わらず、予想を超えた 28 名もの参加があった。
あえて「医療的ケア児」ではなく一般的な切り口をテーマにして開催したため、普段は実行団体と接点のない参加者に対して実行団体の活動や設立の経緯を伝えることができたと考えられる。開催後のアンケートでは、実行団体の活動やその意義について、9 名の回答者全員が「よく理解できた・理解できた」と回答している。

6. 外部との連携
プロボノ団体（特定非営利活動法人 2 枚目の名刺）のメンバーを実行団体（NPO 法人 Lino）に紹介。実行団体と面談を重ね、組織のミッション・ビジョン・バリューの見直しや今後優先して取り組む事業等についての整理を行い、団体の方向性を明確にすることができた。

7. 結論
事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス			○		
（2）事業成果の達成度			○		

事業実施の妥当性
厚生労働省資料「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査報告書（令和 2 年 3 月）」によれば「家族の抱える生活上の悩みや不安等」の第 2 位に「いつまで続くかわからない日々に強い不安を感じる（[当てはまる]と[まあ当てはまる]の合計で 70.4%）」、第 7 位に「社会から孤立していると感じる（[当てはまる]と[まあ当てはまる]の合計で 51.3%）」が挙げられている。
他方、厚労省資料「医療的ケア児等総合支援事業実施要綱（令和 4 年 4 月）」では、医療ケア児本人への支援に比べ、家族への支援は具体的でない。家族への支援の例として「家族のレスパイトの時間確保」と「きょうだい児の自己肯定感」が挙げられているが、不安感・孤立感については言及がない。
当該事業の掲げる目的「医療的ケア児とその家族が孤立することなく夢や希望をもって生活することができる社会の実現」は、行政の支援事業では不充分な部分を補うものであり、これを目的として掲げたことには妥当性がある。

活動の妥当性

厚生労働省資料「医療的ケア児者とその家族の生活実態調査報告書（令和２年３月」） によれば「家族が日々の生活で行いたいこと」の第１位は「家族一緒に外出や旅行する（96.8%）」であり、そのうち「問題なく行えている」家族は 17.2%だけであった。

医療的ケア児家族に対する旅行支援・外出支援は需要が大きいと予想され、当該事業がこれらを主たる活動として掲げたことには妥当性がある。

事業の効率性

資金面では、当該事業に投入された休眠預金資金の約 3 割弱が使われず JANPIA に返還される見込みである。要因としては、JANPIA からの助成金を受領した後に新型コロナウイルス感染症が流行し、実行団体は受益者の安全性を優先し当該事業の主たる活動である「旅行支援・外出支援、交流イベント」事業を中止・規模縮小して予算申請したこと、それに伴い当財団のプログラムオフィサーが計画していた視察のための費用も縮小された点が挙げられる。事業計画の規模は縮小されたものの、衛生対策や計画見直しを経た上で活動は可能な限り実行された。

伴走支援面では、３団体のうち１団体が新型コロナウイルス感染症流行の影響により 2022 年４月に事業終了することとなった。当事業ではプログラムオフィサー関連費用と管理的経費からプログラムオフィサー人件費と事務局人件費を充てていたが、支援する実行団体が２団体になった為、管理的経費でまかなっていた業務についてはプログラムオフィサー２名で担当することとし、経費削減を行った。

8.　知見・教訓

・事業を最終年度まで行った２つの実行団体は、社会的インパクト評価手法を用いた成果管理（アウトカム、アウトプットを設定しての事業計画、評価計画作成等）を初めて行ったため、資金分配団体としての非資金的支援が社会的インパクト評価手法の普及に貢献していることを確認できた。TOC や短期アウトカムの測定等、事業計画を立て活動を評価するスキルを資金分配団体も実行団体も休眠預金事業によって習得できたことは、今後非営利団体が継続して事業を実施していくための大きな成果だったと考える。例えば、ある実行団体は、初めて協力先企業のボランティアへアンケートを実施し参加前後の心境の変化やコメントを収集した。これにより、自団体の事業の効果を把握・評価し、次回実施時に向けた改善につなげていくことができるという声をいただいた。

・医療的ケア児と家族が抱える様々な課題はまだ認知度が低く、より広く世間に知らせる必要性があることを認識した。

「医療的ケア児」という言葉の認知度は高くなってきたが、「どのような課題を抱えているか」はあまり認識されていない。協力先企業のボランティアスタッフアンケート（67 名が回答）では、約６割が「医療的ケア児について知っている」と回答したが、「日常的に抱える課題について知っている」

と回答した人は約４割しかいなかった。当事者の家族からは「医ケア児とその家族の旅行や移動の問題に関して広く世間に知らせていただけて嬉しかった。今後も多方面にわたって世間に知らせていただきたい」との声をいただいており、これからも継続的に広く発信していくことで、当事者が抱える課題への理解度を高め、彼らが孤立することのない共生社会に近づけていくことができると考える。

9.　出口戦略

現状はプラットフォームを利用する助成先団体への寄付の声掛けが中心になっているが、当財団に対する寄付も増やすよう、支援者への呼びかけや法人寄付先の開拓等を行う。

10. 提言

休眠預金事業終了後は医療的ケア児に特化した事業は行わない予定だが、継続して当財団の助成先団体になる予定の団体（NPO 法人 Lino）もある。プラットフォームを活用した資金支援を行いながら、休眠預金事業期間中に発見した新たな課題や目標を、継続してフォローできる体制を整える。

課題：・代表理事は他に本業がある中での事業推進担当であるため負担が大きい

・スタッフを雇用するほどの収益はない

目標例：インクルシネマの全国展開等

11. アウトカムの分析

アウトカムの達成度

（1）　短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム（資金的支援）	**指標**	**初期値**	**目標値／目標状態**	**目標達成時期**	**達成度**
1、支援地域において、本事業に参加した子どもや家族が日常生活を前向きに過ごせる状態になる	より前向きに過ごせるようになった参加者の割合	家族一緒での外出や旅行ができないと諦めている状態	参加者の５割以上が能動的に外出・旅行できると回答	2023 年３月まで	一部達成 Lino：38%が「自分たち家族だけで行きたいと思うようになった」と回答 H＆W:90%が「家族だけの旅行に自信がついた」と回答 （各実行団体報告書より）

2､きょうだい児が我慢することなく楽しい時間を過ごせる状態になる	思い切り楽しめたきょうだい児の割合	親に甘えたり我がままをいう事を我慢してストレスを抱えている状態	外出や旅行時にきょうだい児の５割以上が、ストレスを感じずに楽しめていると回答	2023 年３月まで	達成 Lino：きょうだい児の 72%が「いつもより気軽 に楽しめている ようだった」と回答 H＆W：きょうだい児の９割が「満足した」と回答 （各実行団体報告書より）
3､利用した商業施設などが、特別感なく支援対象の子どもとその家族を受け入れるようになる状態	医ケア児と家族の対応をした受け入れ先企業の従業員やボランティアの心境の変化	従業員やボランティアが、医ケア児や家族の対応をしたことがない状態	医ケア児と家族の対応をした従業員やボランティアの９割が、社会課題の存在を知り、課題の解決に向けて行動していきたいと回答。	2023 年３月まで	未達成：アンケート回答者（67 名）のうち 58%（39 名）が「社会課題解決に向けて行動したい」と回答。（参考資料①②）

短期アウトカム（非資金的支援）	**指標**	**初期値**	**目標値／目標状態**	**目標達成時期**	**達成度**
1､支援地域において、実行団体へのファンドレイズ支援により、対象となる子どもや家族に対する支援が活性化される	1、支援開始からの寄付件数、金額の増加 2、支援者が実行団体の活動に対する理解を深めることができたか ３.実行団体における､ファンドレイズスキルの向上	１．十分な活動資金が集められていない状態 ２．実行団体の活動を理解していない状態 ３．ファンドレイズのスキルがない、またはあまり高くない状態	１．寄付を集めたことにより､＋αで受益者が活動に参加できている状態 ２．当財団をとおした実行団体への寄付者やセミナー参加者の９割が、活動に対して理解が深まったと回答。	2023 年３月まで	１．達成：当財団のプラットフォームを活用し３団体合計で約 400 万円をファンドレイズし、旅行やイベントを実施することができた。 ２．達成：10 割が活動に対して理解が深まったと回答（2021 年 10 月セミナー参加

			３．実行団体へのアンケートで全ての団体が「ファンドレイズのスキルが高まった」と回答。		者アンケート８名分､2023年３月実施休眠預金事業支援者アンケート７名分より）（参考資料③④） ３．未達成：実行団体へのアンケートでは２団体が「ファンドレイズのスキルはあまり高まらなかった」と回答。
２、実行団体において、伴走支援により組織基盤が強化され、事業の継続性向上や事業の拡大した状態になる	伴走支援により組織基盤が充実し､事業が拡大したまたは継続性が向上したと実感しているか	人手やネットワークの面で十分な活動ができていない状態、属人性が高く継続性が担保できていない状態	Lino：初期よりもボランティア人数が増えている、報告会やSNS での発信体制が整っている H＆W：社会に対してより団体の意義が伝わる状態になっている（指標や活動意義の開示等）	2023 年３月まで	Lino：達成 社会的企業のボランティア募集サイト Activo や NPO 法人２枚目の名刺プロジェクトを通した企業ボランティア等による、イベント運営や SNS 発信等に関しての協力体制を構築した。 H＆W：未達成 団体の方針として、ウェブサイト上は現状以上の指標や活動意義の開示の必要性はないと判断したが、事後評価報告書内で医ケア児の父親のコミュニティづくり

					に関して言及、見過ごされがちだった父親の抱える課題にフォーカスを当てた。

（2）アウトカム達成度についての評価

資金的支援に関して

①受益者（医ケア児とご家族）の心境の変化

医ケア児とご家族が前向きになる等の資金的支援のアウトカムは、概ね達成できた。実行団体が当事者に常に寄り添い、彼らの声を丁寧に拾い上げて都度改善に向けて取り組んだ結果である。

ある当事者家族は、実行団体の旅行に参加後、自ら旅行を企画し実行。「もし実行団体の旅行に参加しなかったら、自分で旅行するなんて思いもしなかった。一度旅行を経験し、『自分でもできるかもしれない』と思えたことが大きなきっかけとなり、事前に宿泊施設や訪問先の施設に車椅子の受け入れ可否等を問い合わせ、実際に旅行することができ、達成感を味わった。」というコメントがあった。

②社会の変容（協力先企業スタッフ・ボランティア等）

協力先企業スタッフ・ボランティアアンケート回答者（67 名、複数回答）のうち「課題の解決に向けて行動していきたい」と回答したのは 58%で、アウトカム目標の 9 割には到達することができなかった。しかし、回答者の 85%は「インクルーシブな社会は大切だと思う」と考えており、自由記入欄には「自分がどのように行動すればよいのか分からない」という記載が複数見られた。今後は、彼らに単発ではなく複数回ボランティアとして関わってもらったり、当事者家族との関わり方の具体的事例を提示し「何をしたらよいか」を明確にしたりすることによって、課題解決に向けて行動する人が増加する可能性がある。

また、NPO 法人 Lino のイベントには子どものボランティアも定期的に参加している。2020 年度から 2022 年度までの間で、27 名（延べ 187 名）のサポートキッズが参加、この経験を通して、彼らにとっては『医療的ケア児』が日常で当たり前の存在となり、彼らを個人として尊重し、自然に配慮できる姿勢が醸成されると考える。

上記に記載した①受益者（医ケア児とご家族）の心境の変化と②の社会の変容が広がることで、将来的に中長期アウトカムで目指す「本事業に参加した子どもや家族が社会から孤立することのない地域社会」に繋げていくことができると考える。

非資金的支援に関して

実行団体からは「ファンドレイズのスキルはあまり高まらなかった」という回答を得たため、アウトカムは一部達成しなかった。

しかし実際には 3 団体全体で 10 回中 9 回はクラウドファンディングの目標金額を達成できた上に、評価アドバイザーの実行団体ヒアリングでは、ファンドレイズのノウハウである「SNS を使った宣伝広報」や「活動紹介の文章表現」「写真選定」等の有益な助言を資金分配団体から得たとの回答があり、ファンドレイズ力の向上が示唆された。

実行団体はファンドレイズを「既存のファンドレイジングサービスを活用せず自団体単独で資金を調達するスキル」「過去の支援者からの支援ではなく、新規支援者を獲得すること」と捉えていたため、回答は「あまり高まらなかった」を選択されたが、実際は、ファンドレイジング力は高まっていると言える。

今後指標を検討する際は、言葉の定義を明確にしてから指標として設定し互いの齟齬をなくすことが必要である。

12. 事業の実績

インプット（主要なものを記載）

事業費（自己資金含む）	¥28,237,740
新型コロナウイルス感染症対応緊急支援追加額	¥1,166,950
人材	内部：合計 5 人（プログラムオフィサー2 人（メイン 1 人、補助 1 名）、本事業管理担当者 3 人（兼任を含む） 外部：合計 15 人ほど（プログラムオフィサー 1 名（JANPIA）、評価アドバイザー1 人、選考委員会 5 人、外部識者 5 人、広告デザイナー1 名、WEB デザイナー1 名）
資機材	パソコン、プロジェクター、プリンター
その他	選考委員会費、印刷製本費（訴求チラシ、アニュアルレポート）、会場費（セミナーなど）、人件費等

経費実績（助成金の合計）

契約当初の計画金額	￥58,886,400
実際に投入した金額	￥39,157,687

自己資金

契約当初の計画金額	￥8,175,000
実際に投入した金額	￥4,494,889
資金調達で工夫した点	寄付募集時に実行団体と協働し SNS や既存支援者へ声掛け

活動とアウトプットの実績

（1） 主な活動

[資金的支援]

「支援対象の子どもとその家族の旅行や夢の実現をサポートする機会を実施」に対する活動

支援対象の子どもとその家族を支援する旅行や外出について、希望する家族を公募し、子どもの症状を確認したうえで、事務局にて受け入れ可否を判断する。

ボランティアの募集や交通手段・チケット・宿泊先等の訪問先の手配を行い、家族に対してはオンラインで事前に交流・説明会を実施する。

当日は子どもとその家族に付き添い、訪問先への移動・現地での体験をサポートする。旅行後に家族への意識調査を実施。

「支援対象の子どもとその家族同士が交流や相談をする機会を実施」に対する活動

他の家族と交流できる場について、参加を希望する支援対象の子どもとその家族を公募する。

対面またはオンラインにて交流会を開催し、開催後にアンケートを実施する。

「一般の商業施設などが支援対象の子どもとその家族を受け入れる機会を実施」に対する活動

支援対象の子どもとその家族の旅行や外出をサポートする際に、企業または個人のボランティアの募集を行う。

また、訪問先に関係する商業施設に対し、事前に協力を呼び掛ける。

支援対象の子どもとその家族の受け入れ後、ボランティアや商業施設等に意識調査を実施する。

[非資金的支援]

「寄付募集のページ作成、公開」に対する活動

実行団体から寄付募集ページの素材となる写真やテキストの提供を受け、寄付募集ページを試作する。

実行団体と確認・修正作業を行い、お金をまわそう基金のホームページ内で公開・寄付募集を開始する。

寄付の状況に応じて適宜内容の見直しを行う。

「当財団ウェブサイト等での、実行団体の活動発信」に対する活動

実行団体の活動の視察を行い、活動報告の作成、実行団体による内容確認を受ける。
ウェブサイト上で公開し、両者の SNS 等でも拡散を行う。
また、寄付募集に関しても、寄付の受付状況に合わせて声掛けや拡散の方法を検討・改善する。

「実行団体へセミナー・体験会などのイベント企画」に対する活動

実行団体のセミナー・体験会の開催について意向を確認するとともに、当財団からも開催の提案を行う。
開催の意向があれば、日程や内容の打ち合わせを行い、告知のための原稿も作成する。
SNS やメールマガジン等で広報を行い、参加希望者を募る。
イベントを開催し、開催後は参加者に対してアンケートを実施する。
当日の様子については、後日お金をまわそう基金のホームページでも内容を記事にまとめて公開する。

「実行団体向けに、組織基盤強化や事業拡大するためネットワークの提供などの支援を行う」に対する活動

それぞれの実行団体の課題や必要な支援を確認し、適切な支援を行う。
支援完了後にヒアリングやアンケートを実施する。

（2） アウトプットの実績

アウトプット（資金的支援）	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	実績
1、支援対象の子どもとその家族の旅行や夢の実現をサポートする機会を実施	1、実施した回数 2、参加した人数	旅行などができていない状態	1、87 回 2、2,580 人	2023 年 3 月まで	1．67 回 2． Lino：38 回 1,950 名 (2022.12 時点) 沖縄海洋リハビリ体験ツアー： 3 回 10 組 24 名 Disney ツアー：3 回 12 組 31 名 USJ ツアー：2 回 6 組 13 名 インクルシネマ：30 回 1,882 名 H＆W：29 回 家族全員旅行：12 回 23 組 35 名 オンライン家族全員旅行：16 回 82 名
2、支援対象の子どもとその家族同士が交流や相談をする機会を実施	1、実施した回数 2、参加した人数	同じ地域に住む家族同士でもつながれない状態	1、15 回 2、120 人	2023 年 3 月まで	1． 8 回実施 2．52 名
3、一般の商業施設などが支援対象の子どもとその家族を受け入れる機会を実施	実施した回数	一般の商業施設やボランティアなどが、医ケア児や家族の対応をしたことがない状態	87 回実施	2023 年 3 月まで	67 回

アウトプット（非資金的支援）	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	実績
1、寄付募集のページ作成、公開	1、実行団体に関心を持った人に、その現状や取り組みが分かりやすくまとめらえているか。 2、寄付者が迷わずに寄付できる状態か。	何もない状態	実行団体と当団体の双方が確認し公開できる状態	2020 年 4 月まで	① 実行団体 3 団体の寄付募集ページを作成済。 ② 2020 年度、 3 団体が寄付募集実施。うち 2 団体が目標金額を達成。残り 1 団体も、 8 割を達成。 ③ 2021 年度、 2 団体が寄付募集実施。のべ 3 回のうち、全ての回で目標金額を達成。 ④ 2022 年度、 1 団体が 2 回寄付募集受付。全て目標金額を達成。
2、当財団ウェブサイト等での、実行団体の活動発信	実行団体が取り組む事業や活動を随時発信でき、支援者などが確認できる状態にする。	実行団体の情報発信がない状態	実行団体の活動視察の公開：８本以上、SNS 等の発信：月 4 回以上	2023 年 3 月まで	活動視察：達成（9 本公開、Lino 5 本、H＆W 4 本） SNS 等の発信：未達成（実行団体の寄付募集期間が短かった点、イベント実施回数も計画より少なかった点等が原因。）
3、実行団体へセミナー・体験会などのイベント企画認知向上と支援者拡大に向けて、実行団体とセミナー・体験会などのイベントを企画、開催	希望する実行団体へ、自身の活動を広めるための機会を提供した回数と、参加者数	普段からセミナーや体験会の未実施もしくは経験が少ない状態	実行団体 1 団体ごとに年度に 1 度開催し、1 度に 30 名の参加者を目標にする。	2023 年 3 月まで	未達成：2 回実施（H＆W と 2021 年 10 月に対面セミナー 1 回（28 名参加）、Lino と 2022 年 3 月オンラインセミナー 1 回（参加者 15 名）
4、実行団体向けに、組織基盤強化や事業拡大するためネットワークの提供などの支援を行う	支援を実施した回数と、参加団体の満足度	日々の業務が優先され、組織基盤強化やネットワーク構築等に時間をさけない状態	1、全ての実行団体に対し、1 年に 1 支援以上実施 2、全ての団体が有意義な支援だったと回答	2023 年 3 月まで	概ね達成：2020～2022 年度、実行団体を含めた当財団助成先団体の交流会を開催。参加した実行団体全てから「有意義な支援だった」と回答。 【参加団体】 2020 年度：ドリーム、H＆W 2021 年度：ドリーム、H＆W、Lino 2022 年度：Lino

13. 事後評価総括

当該事業では「休眠預金資金を原資とするマッチング寄付」という手法を採用し、実行団体の活動に対して寄付を募り、集まった寄付金額の 3 倍額を寄付金に上乗せする形で休眠預金資金を実行団体に分配した。これにより、資金分配に民意が反映されること、また、市民の寄付意欲が喚起され寄付による資金調達が容易になることにつながった。

休眠預金資金は国民の資産であることから、資金分配にも社会的合意形成のプロセスを設けることは、資金分配に民意を反映させる手法として理にかなっていたと考える。

14. 資料（別添）

参考資料①ボランティアアンケート（難病の子どもとその家族へ夢を・57 名分）

1. 1．Hope and Wishのウィッシュ・バケーションにボランティアで参加する前は、「医療的ケア児」のことを知っていましたか？

詳細　インサイト

知らなかった	19
知っていた	38

2. 医療的ケア児とその家族が、外出や旅行等の日常生活で困難を抱えていることを知っていましたか？

詳細　インサイト

知らなかった	34
知っていた	23

3. Hope and Wishは、医療的ケア児とその家族が孤立することのない、インクルーシブ（※）な社会づくりを目指しています。（※障がいの有無や性別、人種、国籍等に関わらず、お互いを尊重して認め合う。）
ボランティアを通して、団体の目指す社会について理解しましたか？

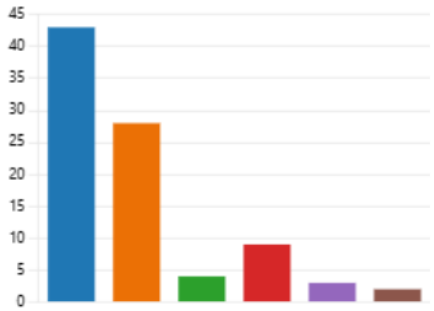
詳細

理解した	51
良く分からなかった	6

4. ウィッシュ・バケーションのボランティアを通して感じられることを、当てはまるもの全てに〇をお願いいたします。

詳細

インクルーシブな社会は大切だと思う	43
インクルーシブな社会づくりに向けて…	28
インクルーシブな社会づくりに向けて…	4
自分にできることはあまりない	9
社会はあまり変わらないと思う	3
その他	2



5. 自由記入欄

22 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	理解はできたが、だからといって行動できるかはわからない。現時点では、動けない、何をするべきかがわからない。
2	anonymous	希望が見えてきた気がします
3	anonymous	今回初めて知ったことだったので、びっくりもしましたが、楽しかった。その気持ちを大事にしていきたい。
4	anonymous	活動としての参加ではなく、日常の中でどのように関わることができるのかわからない
5	anonymous	ニュースで見たことはあったが、初めて関わっていういろ知れて良かった。
6	anonymous	勉強になった
7	anonymous	自分にもできることがありそうな気がしたので、何か行動を起こしていきたい。
8	anonymous	まずは知ることが大切。自分もまずは人に話してみたり、イベントに参加したりしてみたい。
9	anonymous	直に体験できることはすばらしいと思います。書類で見知ったこととは大きな差がありました。多くの方達に実際に触れ合う時間を持つことをおすすめしたいと思います。
10	anonymous	今回の経験を業務にも活かしたい
11	anonymous	普段の業務に活かすために何をすればよいか考えてみたい
12	anonymous	自分の意識が変わったことが良かった
13	anonymous	会社の中で具体的に動くことはむずかしいと思うが、個人で動くことはできそうなので、何かできることを探してやってみたい。
14	anonymous	何をしてあげるのが良いのか、何をすべきなのか、自分に問いかけてみることから始めたい。
15	anonymous	ハードルが高くてなかなかこれまで行動ができなかったが、これから少しずつ小さなことから動くことができそうな気がする
16	anonymous	みんなに知ってもらうために各地で活動を広げると良いと思う
17	anonymous	具体的にやるべきことを決めてもらう方が最初はやりやすいと思った
18	anonymous	関わる時間が短かったので、どうしていいか困った
19	anonymous	ボランティアをする機会をたくさん作ってくれると良いと思う
20	anonymous	勉強会のような機会があれば参加してみたいと思います
21	anonymous	行動をしたいと思っていますが、理解をすることと行動をすることは同じではないので、なかなかむずかしい。（具体的な行動として）
22	anonymous	インクルーシブな社会は大切だと思うが、、、そもそもインクルーシブということが何なのか理解できていない

参考資料②ボランティアアンケート（Lino・10 名分）

1. 1．Linoのインクルシネマ事業に協力される前は、「医療的ケア児」のことを知っていましたか？

詳細　インサイト

知らなかった	8
知っていた	2

2. 医療的ケア児とその家族が、外出や旅行等の日常生活で困難を抱えていることを知っていましたか？

詳細　インサイト

知らなかった	5
知っていた	5

3. Linoは、医療的ケア児とその家族が孤立することのない、インクルーシブ（※）な社会づくりを目指しています。（※障がいの有無や性別、人種、国籍等に関わらず、お互いを尊重して認め合う。）
ボランティアを通して、団体の目指す社会について理解しましたか？

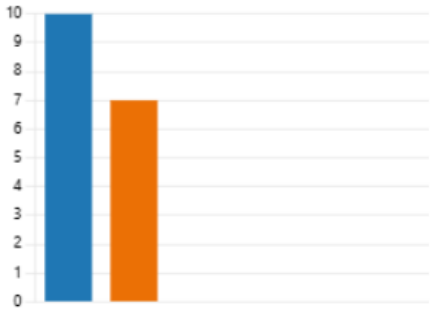
詳細

理解した	9
良く分からなかった	1

4. インクルシネマに協力していただき、感じられるようになったことで当てはまるもの全てに〇をお願いいたします。

詳細

インクルーシブな社会は大切だと思う	10
インクルーシブな社会づくりに向けて…	7
インクルーシブな社会づくりに向けて…	0
自分にできることはあまりない	0
社会はあまり変わらないと思う	0
その他	0



5. 自由記入欄

2 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	もっと社会にアピールして理解していただけるように協力できればと思います。
2	anonymous	医療ケア児の方がもっと生活しやすくなる為に協力をしていきたいと思います。

参考資料③休眠預金事業対談会（2021 年 10 月開催）アンケート

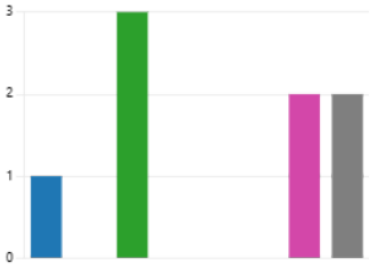
（28 名中 8 名回答、設問 1 は名前記入の欄の為省略）

2. お金をまわそう基金のセミナーへの参加は？

初めて	4
2回目	1
3回目以上	3

3. 今回のセミナーはどちらで知りましたか？

当財団ＨＰ	1
当財団SNS（acebook、Twitterな…	0
当財団メールマガジン	3
ネット掲示板（Peatixなど）	0
その他ＳＮＳ	0
チラシ	0
知人から聞いて	2
その他	2



4. 今回のセミナーの満足度をお知らせください。

詳細

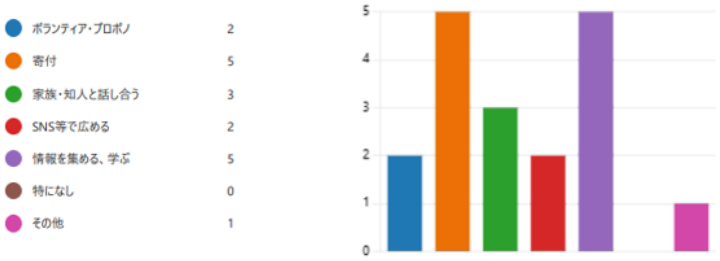
とても満足	6
やや満足	1
普通	1
やや不満	0
不満	0

5. 今回のセミナーにご参加いただき、公益社団法人難病の子どもとその家族へ夢を の意義・活動について、当てはまるものにチェックをお願いします。

詳細

よく理解できた	5
理解できた	3
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0
その他	0

6. 今日のセミナー参加をきっかけに取り組みたいと思ったことを お選びください。(複数選択可)



7. 本日のご感想や登壇者へのメッセージ、今後取り上げて欲しいテーマなど自由にご記入ください。

8 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	懇親会に参加できなかったことが残念でなりません。登壇者の方のお話もさる事ながら、司会者の方が素晴らしい！こちらのお取組についてもHP等があれば教えてください。
2	anonymous	会長のお話を伺うと、いつも元気をいただきます。司会者の方の事業も伺ってみたいと思いました。私にも一度、お話の機会をぜひください。
3	anonymous	本日はありがとうございました。なかなかセミナーに参加させて頂く機会が今までありませんでしたが、気軽に参加出来色々なお話しを聞けた事大変ありがたく思っております。自分自身に自問自答し続けていきたいと思います。
4	anonymous	澤上会長との対談は深く、楽しく、ためになります。今後も企画、続けていただきたいです。
5	anonymous	登壇者の生の声を聞くことは、ネットでは分からない熱量を感じることができて、活動への想いや理解がより深まりました。
6	anonymous	１．直接お話を聞くことができるのは、やはりとても参考になります。　（HPやパンフレットだけですと、やはり、いまひとつ手応えが弱いものですから）。　今後も、ぜひセミナーを積極的に開催していただけるとありがたいです。２．今回、外部の方の司会で、熱心に事前勉強もされており、田附様には深く感謝申し上げます。　ただ、セミナーの趣旨から考えると、　「お金をまわそう基金」のどなたかが司会をしたほうが、中身が深まるのではないかとも思いました。　言い換えれば、「寄付を始める」というのは、やはりハードルの高いことですので、　外部の方の司会ですと、「この団体に寄付をしよう」と思わせるところまで持っていくのは、　やはりなかなか難しいのではないかと感じました。３．いつだったか、複数団体でのセミナーがあったと記憶しますが、　１回で複数団体の活動を知ることができ、とても効率的でした。　とはいえ、団体数が増えすぎても、話がしっかり聞けませんので、　「２団体」くらいを一緒にやると良いのでは、とかねてより思っていました。
7	anonymous	今、自分が頂いている恵はより多くの人を豊かにする為にあるのだと会長のお話しを聞き解釈致しました。大住様が仰っていた自問自答を繰り返し自分がやるべき事、進むべき道をしっかりと捉え前に進んでいきます。貴重なお話しを聞く事が出来る機会を頂き、本当に感謝しております。ありがとうございました！
8	anonymous	恩返しではなく、恩送りという考え方は素晴らしいです。恩送りが広まれば格差を緩和することにもつながると思いました。

参考資料④休眠預金事業に関するアンケート（2023.3 実施、89 名中 7 名回答）

1. 休眠預金事業の前から、「医療的ケア児とその家族」の抱える問題についてにご存じでしたか？

詳細

よく知っていた	3
少し知っていた	2
あまり知らなかった	1
全く知らなかった	1

2. お金をまわそう基金のウェブサイトやメールマガジン、セミナー等を通して、実行団体の活動について当てはまるものにチェックをお願いいたします。

詳細

理解を深めることができた	5
少し理解を深めることができた	2
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0

3. お金をまわそう基金が実行団体の活動の様子を発信してきた中で、特に知ることができてよかったことやもっと詳しく知りたかったことがありましたら、ご自由にご記入ください。

3 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	当事者家族なので、医療ケアのある子、重度障害を持つ子の旅行や移動の問題に関して、広く世間に知らせていただけて嬉しかった。これらの子供の家庭ではでもまだ色々な分野に課題があるので、今後も多方面にわたって広く活動を通じて世間に知らせていただきたい。
2	anonymous	様々な課題を抱えている方たちが救われて生き生きしている様子が伝わり、私も元気を貰ったので寄付をした甲斐がありました。
3	anonymous	世の中には様々な状況に置かれている人がいて、その置かれている状況により、通常では易しいことであったり当たり前であったりすることが、決してそうではないということを改めて気付くきっかけとなりました。

4. 休眠預金事業や当財団について、ご質問やご意見等ございましたらご自由にご記入ください。

2 応答

ID ↑	名前	回答
1	anonymous	休眠預金はいわば死に金だと思いますので、このような事業が更に活用されることを期待します。
2	anonymous	寄付を募る段階ではその活動内容を知ることができたのですが、あくまでも能動的に情報を取りに行かなければ触れにくいように感じます。定期的な寄付に繋げる取り組みとして、寄付者等に対して、寄付されたお金等で具体的にどういうことができたのか、誰がどう喜んでくれたのか、そういった情報が自然に入ってくるような取り組みができればいいのではないかと思います。

15. 基本情報

資金分配団体	公益財団法人　お金をまわそう基金
事業名	難病の子どもとその家族の夢を寄付で応援
事業の種類	草の根活動支援事業

実施時期	2020 年　6　月～ 2023 年　3 月
対象地域	全国
直接的対象グループ	自立歩行、座位保持が困難な医療的ケア児を中心とする子ども達とその家族　約 5,000 人